



〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台 6-19-19 Myビル Tel.(043)287-2624 Fax.(043)287-2610  
ホームページ <http://mariyacinic.com/> メール [info@mariyacinic.com](mailto:info@mariyacinic.com)

夢を膨らませて新入学、新入社、そして新しい活動を始められる4月となりました。「私には夢がある。」と奴隷の自由と平等を訴えたキング牧師が暗殺されたのは4月4日でした。黒人奴隷の解放を訴えて南北戦争を勝利したリンカーンが暗殺されたのも4月15日です。

縁起でもない、と怪訝されると運命論者となつてしまします。問題を起こせばかりで、移民排撃をするトランプ大統領の共和党は、そもそも奴隷制度反対を訴えてリンカーンが1854年に結成した政党です。リンカーンが大統領になつて奴隷解放を模索した為に1960年に南北戦争が起こり、2期目に当選し、南北戦争に勝利した1865年に殺されたのです。その後、キング牧師が壮絶な解放運動をして公民権法が成立したのが1965年ですから、実に100年を経て真の自由と平等は得られてなかつたのです。

キング牧師は、「今日、明日、仮に困難が待ち受けていようとも私には夢がある。それはアメリカン・ドリームに深く根ざした、ひとつの夢です。私には夢がある。『万人は生まれながらにして平等である。これが自明の理である』ことをここに保証する。この国家の基本理念を真の意味によって実現する日が来るという夢が。」と叫びました。

私たち夫婦が、小さな診療所を始めたのは1987年4月7日です。低血糖症の治療をして、精神的な問題を抱えている人々を治したいという小さな夢からのことです。歩みは、次頁以降に概略を、また30周年記念誌に詳細を記しています。苦難ばかりでした。悩み苦しんでも休むわけにはいきません。全ての困難を受入れ、頭を下げ、非難攻撃にひるまず、ただガムシヤラに進んできました。

人生は楽ではありません。それでも夢を見なければ、虚しい人生を生きる事になります。楽をしようとしたら、身体も心も弱くなつてしまします。なぜ、努力をするのか、夢を見ようとするのか。それは、人間というものは、支え合い、助け合わなければ、人間らしさを失い、惨めな動物になってしまうからです。

苦難と不運と力の無さに嘆きながら生きてきた私たちが、いつのまにか多くの力と助けを得るものとなりました。聖書の詩篇には、「苦しみにあつたことは、私にとって幸いでした。私は、それであなたの掟を学びました。」とあります。思い通りに生きられないからこそ、学び従い耐えなければなりません。そのようにして、人の助けがありがたく思え、苦しんでいる人々への思い遣りを教えられるのです。どうか、新しい歩みを始められる皆さん、夢を描いてください。人を助ける夢を描いてください。神の守りがありますように。 事務長 柏崎久雄

### 感染症で受診される方へ

発熱やくしゃみ・咳症状のある方、水ぼうそう等伝染性疾患の方は、入口、待合室・診察室、会計の流れが異なります。また、トイレ後のハンドソープによる手洗いにご協力ください。

#### ★ 入口

正面入口横の中央通路のインターホンを押して下さい。

#### ★ 待合室・診察室

2階の、第二待合室です。

#### ★ 会計

疾患によっては、廊下会計となる場合があります。

### ヨーゼフのキャンペーン

ペプタブ、バイオファイバー、オープンプロ3、4/28(金)まで

### 聖書を読む会

4月18日(火)午後2時～2時20分  
当院待合室にて行います。  
どなたでも参加できます。

\* 4月11日(火)は院長が4カ月健診実施の為、午後は15時からです。  
\* 日本脳炎のワクチンが全国的に不足しています。入荷は月に1回程度で、供給改善の時期は未定です。

\* 病児保育の「ご利用」には、施設ごとの事前登録が必要です。登録用紙はホームページでダウンロードできます。書類記入を済ませ、事前登録受付時間を確認して、お時間に余裕をもってお越しください。

\* 栄養指導を当日の予約時間までにご連絡がなく、無断キャンセルした場合、10800円のキャンセル料が掛かります。

\* 体組成計を健康管理にお役立て下さい。体脂肪量や筋肉量を始め、筋肉の左右バランス、内臓脂肪レベル、基礎代謝量、骨量などの測定ができます。栄養指導のご予約を頂いている方は無料で、その他の方は1回3000円(税込)で測定できます。

\* 柏崎良子院長の新作、『新・栄養医学ガイドブック』(A5版363頁税込2916円)が4月7日発売です。食事や栄養、生活習慣の改善を中心に治療を行ってきた医師が、栄養素の働き、使い方について、まとめた一冊です。(株)ヨーゼフよりお求めください。

## 「マリヤ・クリニックと低血糖症治療の30年の歩み」

### 院長の医学生時代：

下宿で外食、料理は作らず、ドーナツ5つを一気に食べたりする。  
バドミントンをやっていたが、体調を崩し、学業が難しくなる。午後の授業は殆ど眠ってしまった。  
人付き合いは苦手で、うつ状態になり、医師を諦めることもあった。  
親は心配して関わりを強くするが、低血糖症の理解がなかったので、強制的な指導があった。

### 1980年：

結婚。体調不良で医学部を卒業できず、自宅で療養しながら勉強。  
人と親密に話したことがなく、夫と初めて長い話をした。  
料理は自分でやったことが少なく、片付けもできない。  
動きが止まって落ち込むことが多く、精神・心理的な原因だけでないことを夫が分析した。

### 1981年：

甘いものを食べることを止め、胚芽米を食べるようになる。  
4月に出産。妊娠3カ月の切迫流産を必死な祈りで瞬間的に癒され、その後体調が良くなる。  
秋に医師国家試験合格。家族を支えるために仕事。

### 1982年：

クリスチャンの『ポポ』という新聞に柿谷正期先生が低血糖症の記事を連載し、その可能性を探る。春、千葉に移住し千葉大学医学部附属病院にて研修。医局にて、不治と言われた患者さんのために祈ったところ、癒され、いのちの恩人と言われ、開業を考え始める。  
50キロも離れた病院への勤務の途中、居眠り運転をしばしばするので、夫が開業を決意。

### 1987年：

4月、マリヤ・クリニック開業。  
稲毛駅前宝ショッピング2階奥15坪で開業。事務員一人。

### 1988年：

OGTTを始めて低血糖症の治療を試み、なかなか成果をつかめないでいた。  
高尾利数著『20世紀の疫病 低血糖症』が唯一の参考文献。

### 1989年：

大沢博教授の低血糖症の記事が朝日新聞に載る。

### 1990年：

千葉大薬学部大学院生を食事療法にて低血糖症から治す（現在、成田にて薬局経営）。  
市販の栄養食品を用いるも、容量が少ないので成果を出せず、困っていた。

### 1991年：

2月、分子栄養学研究所金子雅俊所長との出会いでKYB運動を始める。

### 1992年：

分子栄養学の採用。5月、柿谷正期先生講演会「精神疾患と栄養」。  
宝ショッピング2階の30坪に移転。院長と事務長+職員3名

### 1995年：

6月、マリヤ・クリニック・ニュースを発行し、栄養医学について患者に啓発を始める。

### 1997年：

4月、開院10周年記念会を行い、『当クリニックの指針と健康自己管理』という小冊子を500部配布する。その中には、低血糖症の症例8人を載せている。  
10周年の資料配布を機に、1997年の女性セブンの記事を皮切りに低血糖症が取り上げられ始める。

### 1998年：

4月、『栄養療法の手引』（148頁、マリヤ・クリニック）。低血糖症治療の成果を初めて明らかにする。  
OGTT（5時間）1988年8月18日～1997年3月7日（116名実施）  
「おもいきりテレビ」をはじめ5つの番組に出演。雑誌や新聞などに多く取り上げられる。  
『手引』は初版と合わせ、5,000冊が1年ほどのうちにマリヤ・クリニック発行で売れる。

### 2001年：

1月、『栄養医学の手引』出版。低血糖症の概要、体質と原因、メカニズム、検査と診断、低血糖症の治療法を食事療法、運動療法、栄養療法に分けて説明する。低血糖症患者に対するケアの仕方を説明する。

## 2004年：

5月、『低血糖症治療の手引』出版。有限会社ヨーゼフサプリ（翌年に株式会社ヨーゼフに変更）を柏崎久雄が設立し、血液検査をした患者さんだけのために説明をしながらサプリメントを販売することを始め、その資料として、『手引』（175ページ）を出版。マリヤ・クリニック独自の OGTT 判断基準を公表。ホルモン分泌による心身への悪影響を提言。各地の低血糖症を治療する医療機関のテキストとなる。

## 2007年：

4月、『低血糖症と精神疾患治療の手引』出版。低血糖によるホルモン異常を解明。腸内環境の悪化による心身異常を解明。OAT（有機酸）・ペプチド検査治療を始める。食物アレルギー（IgG抗体）の検査治療を始める。脳内への神経伝達物質の働きを説明。有害ミネラルの検査も始める。

## 2008年：

腸内環境改善のサプリメントを提供するために子会社 Yozeph USA Corporation をカルフォルニアに事務所を置き設立。

『栄養医学ガイドブック』を学研より出版し、栄養医学の内容と必要性を丁寧に説明する。稲毛駅前に4階建ての自社ビルを取得し、研修施設を設ける。衆議院議員会館で坂口元厚生労働大臣に OGTT の保険適用を陳情。

## 2009年：

一般社団法人低血糖症治療の会設立。参議院議員会館特別室にて渡辺孝男厚生労働省副大臣ほか 32名の参加のもと、低血糖症の勉強会を行い、低血糖症の病名認知と OGTT の保険適用の要望書提出。会員 249名、社員 10名、理事 7名、監事 2名で一般社団法人低血糖症治療の会を4月に設立。鹿児島大学医学部病院にて、低血糖症の研究発表を納光弘元病院長が行い、厚生労働省科学研究費適用の研究事業認可のために、理事長と大沢名誉教授を含めて打合せをおこなう。

## 2011年：

6月、『低血糖症と精神疾患治療の手引』第三版の販売を開始。6月、日本で初めて低血糖症治療の患者体験をまとめた『低血糖症治療体験集』を出版。11月、放射能や有害物への対処をまとめた『神のデザインによる医療』を出版。

## 2012年：

10月、『低血糖症と精神疾患治療の手引』第四版の販売を開始。

## 2014年：

4月、発達障害における内科的な治療の実績を示した『発達障害の治療の試み』を出版。

## 2015年：

4月、『低血糖症と精神疾患治療の手引』第五版の販売を開始。4月、「一般社団法人低血糖症治療の会」から「一般社団法人障害治療研修所」へ名称変更。10月、千葉県長生郡長柄町上野にマリヤ・クリニックの研修保養所（ながらハウス：2,100㎡）を購入し、整備を始める。

## 2016年：

12月、『低血糖症と精神疾患治療の手引』第六版の販売を開始。

## 2017年：

4月、『新・栄養医学ガイドブック』を出版。4月、開業 30 周年記念会を開催。ながらハウス内の管理棟「グレースハウス」と、「グレースガーデン」を公開。

OGTT（5時間）は、30年間で 3,200 名以上実施しました。

### 「30周年記念誌」の中の「私たち夫婦歩み」より抜粋

1992年2月に分子栄養学研究所の金子雅俊所長が来てくださり、分子整合栄養医学とケンビの製品を紹介してくださいました。機能性低血糖症の治療をするために良質のサプリメントが手に入らないで困っていた私たちにとっては非常にうれしい出会いでした。金子先生の分厚く詳細なテキストを妻は喜びながら何度も読み漁り、治療の術を身に着けていきました。日本で最初の分子整合栄養医学を採用する内科医の誕生です。私も、患者さんに栄養医学を紹介するために1995年3月からクリニックニュースを発行して啓発を始めました。そして、1997年の開業10周年に、マリヤ・クリニックの採用している栄養医学を説明するために、輪転機で印刷してホッチキスで留めた資料集（A4、72頁）を無料で配りました。それが好評だったので、『栄養療法の手引』（A5、146頁）を出版しました。その頃からテレビや雑誌で低血糖症による精神症状が取り上げられ始めました。それまでは、特に精神科医からの非難が多く、OGTT という、本来 2 時間で行う糖尿病診断のための糖負荷試験を 5 時間行う検査（5 時間

OGTT) の結果で血糖値の異常がわかって、患者さんからは疑いの目で見られていましたが、話題となることによって他の医師も対応を始め、認知されるようになってきました。中略

私の身体は変調をきたしていました。検査をすると、私自身も機能的低血糖症になっていたのです。夫婦共に低血糖症になり、どういう生活をして、どういう物を食べると体調が悪くなるか、よくわかるようになりました。私たち夫婦が、障害や病気の方々の異常症状に対して、動じないで思い遣りをもって対応できるようになるのは、自ら苦しんだからです。うまくいかななくても、それが益となることもあるものです。

分子整合栄養医学にサプリメントは必須なものです。利益目的と思われると治療に支障があるので、十分な説明と患者さんの便宜を図るように工夫し、食事の指導なども採用しました。管理栄養士も、分子整合栄養医学の理解がないと栄養指導を行えないので、職員教育にも力を入れました。サプリメントの売上が増えたので、医療機関が販売するのは支障があり、2004年に有限会社ヨーゼフサプリを設立し、翌年株式会社ヨーゼフに変更しました。また、患者さんの勉強のために2007年1月に低血糖症治療の会を発足して、2009年に一般社団法人化しました。まだ知られていない分子整合栄養医学の啓発のために、『栄養医学の手引』(296頁、2001年)、『低血糖症治療の手引』(175頁、2004年)、『低血糖症と精神疾患治療の手引』(237頁、2007年)、『栄養医学ガイドブック』(303頁、2008年)、『低血糖症治療体験集』(175頁、2011年)、と夫婦で一生懸命研究し、治療を進めた成果を発表してきました。子育てが一段落したこともあります。

発達障害の患者さんが治療を求めて来られたのは2008年でした。機能的低血糖症の治療だけでなく、精神神経症状の内科的治療を模索している中で代謝異常や有害ミネラル、そして食物アレルギーの影響に気が付いて、アメリカにその検査を依頼していました。実は、アメリカでは発達障害の治療のための検査だったのです。マリヤ・クリニックは、基本的に来院する患者さんの症状が内科的なものであるとすれば治療を行います。そして、他の医療機関と違うことは、症状の緩和を目指すのではなく(つまり、対症療法)、その症状の原因を探るということです。発達障害児を検査をすると、異常値が多く出て、栄養的にもかなり不足していることがわかりました。貧血やタンパク質不足を治すだけでも症状は改善し、さらにアメリカでも知られているGF・CF(グルテンフリー・カゼインフリー)は、非常に効果的でした。また、偏食が多い子供は遅発型食物アレルギーがあることが多く、食事を調整すると効果がありました。しかし、発達障害児は、代謝障害や有害ミネラルの影響もあるので、治療はなかなか困難であり、繊細なもので、患者さんとその家族による違いが大きくなりました。ともかく、発達障害は治らないものとされているので、『発達障害の治療の試み』(303頁、2014年)を出版し、協力者を求めながら治療を進めることにしました。

若かった時の子育ての苦労を思い返して、奮闘中の親を助けたいと思って祈っている時に、病児保育のことを知りました。早速、会議研修室として用いていた3階を改装して病児保育ノアを2013年から始めました。病児だけの預かりなので、親が仕事を休めたり、熱が下がったらキャンセルとなりますが、採算はともかく、喜ばれています。妻は、これまでより早く出勤して子どもたちを診察しています。

60歳を超えてから、無理が効かなくなってきました。がむしゃらに走ってきました。問題ばかりだった教会も成長し、牧師を助ける信者さんが多くなりました。教団の役員も10年以上やり、口出しをしないほうが若い人が育つのではと、手を引けることを願っています。子どもたちも、それぞれの道を力強く歩んでおり、親の手が掛からなくなるどころか、助けてくれるようになりました。夫婦で、神と人に仕えるために献身を決意してから、はや37年となります。講演や目立つことは避けるようにしています。丁寧に接する人々に対応し、教え、温かく見守る喜びを覚えています。

#### ＜ 診 療 時 間 ＞

月曜～金曜 (午前8時30分～12時10分、午後2時30分～5時30分)

土曜 (午前8時30分～12時10分、午後2時～4時)

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・小中台小学校校医
- ・栄養療法(分子整合医学)



(携帯サイトへ)